

公益財団法人日本レクリエーション協会
福祉レクリエーション・ワーカー養成カリキュラム：課程認定校における科目設置の基準

基本カリキュラム	学習内容例と設置科目例	科目設置の基準
科目1:レクリエーション支援のための基礎的な理解(基本学習時間:51時間)		
学習テーマ1:レクリエーション理論 理論 学習項目2:レクリエーション支援論 学習項目3:レクリエーション事業論	<p>○「レクリエーションの基礎理論」「レクリエーション支援論」「レクリエーション事業論」、それぞれの学習内容を組み込むこと。この際、学科の特性やねらい、学生が目指す将来像にあわせた事例や教材等を用いて授業を構成することが望ましい。</p> <p>○特に「レクリエーション」を冠した科目を設置できない場合、各学習内容に係る時間配分等について一般養成に準ずる設定を設けているので注意すること。</p> <p>○学習した内容が実技科目や現場実習につながるよう配慮する。</p> <p>◎設置科目例 <レクリエーションを冠した科目例> ●レクリエーション概論 ●レクリエーション活動援助法 <レクリエーションを含まない科目例> ●生活援助技術 ●レジャー論 ●介護の基本 ●人間の理解 等</p>	<p>①「レクリエーション」を冠した理論もしくは演習科目を、1科目以上2単位以上で設置すること。</p> <p>②「レクリエーション」を冠した科目が設置できない場合、既存の科目を学習内容により読み替えることができる。</p> <p>③学則上教育カリキュラムに位置付いた科目であること。</p> <p>④実学習時間(60分を1時間とする時間)に換算して、15時間を下回らないこと。</p> <p>⑤実習科目に先立って設定されていることが望ましい。</p>
学習テーマ2:レクリエーション実技 学習項目1:コミュニケーション・ワーク 学習項目2:目的にあわせたレクリエーション・ワーク 学習項目3:対象にあわせたレクリエーション・ワーク 学習項目4:演習1 学習項目5:演習2	<p>○「コミュニケーション・ワーク」「目的にあわせたレクリエーション・ワーク」「対象にあわせたレクリエーション・ワーク」「演習1」「演習2」、それぞれの学習内容を組み込むこと。この際、学科の特性やねらい、学生が目指す将来像にあわせた事例や教材等を用いて授業を構成することが望ましい。</p> <p>○特に「レクリエーション」を冠した科目を設置できない場合、各学習内容に係る時間配分等について一般養成に準ずる設定を設けているので注意すること。</p> <p>○実技の体験にとどまらず、考え方や方法など実技に関わる理論とあわせて学習できるよう配慮する。</p> <p>○実技科目に設置された「指導実習」や「演習」では、指導案の作成も含めて実施されたい。</p> <p>◎設置科目例 <レクリエーションを冠した科目例> ●レクリエーション指導法 ●スポーツ・レクリエーション実技 <レクリエーションを含まない科目例> ●コミュニケーション演習 ●介護過程 ●生活援助技術 等</p>	<p>①実技科目もしくは演習科目として2単位以上で設置すること。科目数は問わないが、「レクリエーション」を冠した科目を1科目以上1単位以上含めること。</p> <p>②「レクリエーション」を冠した科目が設置できない場合、既存の科目を学習内容により読み替えることができる。</p> <p>③学則上教育カリキュラムに位置付いた科目であること。</p> <p>④実学習時間(60分を1時間とする時間)に換算して、36時間を下回らないこと。</p> <p>⑤実習科目に先立って設定されていることが望ましい。</p>
科目2:レクリエーション支援のための福祉領域の基礎知識(基本学習時間:35時間)		
学習テーマ1:支援対象者の生活の理解 学習項目1:支援対象者の生活 学習項目2:支援対象者の身体 学習項目3:支援対象者の心理・精神	<p>○養成課程主任教員は、科目を担当する教員に対して福祉レクリエーション・ワーカー養成課程の指定科目であることを伝え、学習内容等の調整を図ることが望ましい</p> <p>○学生が将来福祉レクリエーション・ワーカーとして活動する領域や支援対象者について、基本的な理解が出来るよう配慮されたい。</p> <p><設置科目例> ・学習内容1:「生活と福祉」、「介護における尊厳と倫理」 ・学習内容2:「身体と心理の理解」、「発達と老化の理解」、「障害の理解」 ・学習内容3:「人間関係とコミュニケーション」、「認知症の理解」</p>	<p>①3科目以上3単位以上で設置する。</p> <p>②各学習内容に1科目以上の科目を該当させる。</p> <p>③学則上教育カリキュラムに位置付いている科目であること。</p> <p>④既存の科目を読み替えることができる</p>
学習テーマ2:社会と福祉サービスの理解 学習項目1:福祉の現況とサービスの全体像 学習項目2:福祉サービスの活用の実際	<p><設置科目例> ・学習内容1:「社会保障と介護保険制度」、「介護過程」 ・学習内容2:「介護の基本」、「生活支援技術」</p>	<p>①2科目以上2単位以上で設置する。</p> <p>②各学習内容に1科目以上の科目を該当させる。</p> <p>③学則上教育カリキュラムに位置付いている科目であること。</p> <p>④既存の科目を読み替えることができる</p>

科目3:福祉レクリエーション支援の専門知識・支援技術(基本学習時間:科目3・4合計84時間)

<p>学習テーマ1:福祉レクリエーション支援の理解(福祉レク支援論)</p> <p>学習項目1:福祉レクリエーション支援の理解</p> <p>学習項目2:福祉レクリエーション支援の実際</p> <p>学習項目3:福祉レクリエーション支援の方法と理論的背景</p>	<p>○福祉レクリエーション支援に関する知識や考え方について、座学に偏ることなく、事例研究やグループ討議、演習シートなど様々な方法を活用し理解する。</p> <p>◎設置科目例 福祉レクリエーション論、福祉レクリエーション支援論 レクリエーション援助論</p>	<p>①科目3と科目4を合わせた科目設置の基準とする</p> <p>②理論科目を1科目以上含む2科目以上5単位以上で設置する。</p> <p>③科目3については「レクリエーション」もしくは「福祉レクリエーション」を冠した科目をおくことが望ましい。</p> <p>④科目4については、原則として福祉レクリエーション支援に関する専門の科目を設置すること。</p> <p>⑤学則上教育カリキュラムに位置付いた科目であること。</p> <p>⑥実学習時間(60分を1時間とする時間)に換算して、84時間を下回らないこと。</p>
<p>学習テーマ2:福祉レクリエーション支援の計画</p> <p>学習項目1:福祉レクリエーション支援の総合計画</p> <p>学習項目2:レクリエーション・サービス活用の支援</p> <p>学習項目3:集団を介した個人支援のためのプログラム計画</p> <p>学習項目4:行事・イベントを通じた計画的な支援</p> <p>学習項目5:福祉レクリエーション支援の評価</p>	<p>○福祉レクリエーション支援に関する計画立案の方法や、具体的なレクリエーション活動を用いた介入技術、素材や活動の創作・アレンジ法について、実技体験に偏ることなく、事例研究やグループ演習、ロールプレイ、展開演習など様々な方法を活用し習得する。</p> <p>◎設置科目例 福祉レクリエーション支援技術、レクリエーション介入技術 福祉レクリエーション援助計画</p>	
<p>学習テーマ3:福祉レクリエーション支援の介入技術</p> <p>学習項目1:信頼関係(ラポール)構築のためのコミュニケーション・スキル</p> <p>学習項目2:1対1の相互作用を用いたレクリエーション活動の展開<介入技術1></p> <p>学習項目3:集団の力動(グループダイナミズム)を活用したレクリエーション活用の展開<介入技術2></p> <p>学習項目4:レクリエーション活動の参加を促す環境づくり<介入技術3></p> <p>学習項目5:効果的な介入のためのレクリエーション活動の選択とアレンジ・創作(状況にあわせたレクリエーション活動の作り直し・応用・改良や創作の方法)</p>		
<p>科目4:福祉レクリエーション支援の総合演習</p>	<p>○科目1～3の学習成果を用いて、福祉レクリエーション・ワーカーとして活動する領域・対象を想定した支援計画の立案、レクリエーション活動を用いた介入技術の演習を行う。</p>	

科目5:福祉レクリエーション支援実習(基本学習時間:30時間)

	<p>○科目1～4の学習成果を用いて、実習する実際の現場における支援対象や環境を理解し、実習担当者の指導・助言のもと、支援プログラムの企画・運営・評価を体験する。</p> <p>◎設置科目例 介護実習、福祉施設実習、臨床実習、病院実習、その他各種福祉サービス実習等</p>	<p>①実習科目として1科目以上2単位以上で設置する。</p> <p>②学外実習による履修とする。</p> <p>②専門の実習科目として設置することが望ましいが、既存の実習科目を読み替えることもできる。</p> <p>③実学習時間(60分を1時間とする時間)で30時間を下回らないこと。</p> <p>④学則上教育カリキュラムに位置付いた科目であること。</p> <p>⑤科目1～4のまとめ(総合演習)的な科目として設定されていることが望ましい。</p>
--	--	---